

さあ「進路実現」に向かうぞ！

中間考査が終わりました。これから「仮評定」がでます。覚悟はできていますか？例年に比べて、テストに向かう緊張感が足りないなあという印象を受けたので、ちょっと心配ですね。

運動部の人たちは全道大会も一段落し、いよいよ進路実現に向けて本腰を入れることができる状況になりました。「さあ次は学校祭だ！」にはならないでくださいね。最後の学校祭なので、力が入るのはわかりますが、進路実現に向けての取り組みも同時進行で頑張ってください。

お祭りムードでは困りますし、早くも夏休みモードに入ってもらっても困ります。はっきり言って、**3年生に夏休みはありませんから！**



さて、これからは「**進路実現**」の本番です。**公務員はすでに国家公務員の出願が始まっています。就職希望者は、まもなく求人票の受付が始まります。**学校祭前には第一弾が公開されることになります。これから応募前見学や受験希望企業の絞り込みをしなければなりません。履歴書の練習もしなければなりません。筆記試験の準備や面接の練習も始めなければ…。

進学希望者は受験勉強に明け暮れます。模擬試験は受験しましたか？志望校は絞りこみましたか？小論文は書いていますか？受験勉強はかどっていますか？講習だけでなく、家でも勉強してください。「**受験勉強にはこれで十分はない**」と話しましたよね。毎日 20 時間勉強しても、合格できなかったら「勉強不足」「努力不足」なんです。

志望理由書は一人では書けない！？

今回は「**志望理由書**」のお話です。就職も進学も志望理由は最も重要です。出願書類（応募書類）も面接試験も、学校や企業が一番聞きたいのは志望理由です。事前に書類として提出して、面接でさらに具体的に質問される（喋らされる）のですから、何よりも重視しているのがわかりますね。ですから、これが明確になっていないと合格にはならないのです。

さて、その書き方ですが…。最初に伝えておきたいのは、一番強い（合格できる）志望理由は、**あなたの「本当の志望理由」**だということです。ウソ、きれいごとは、簡単に見破られてしまいます。本音から発せられたものこそが、勝てる志望理由です。

例えば…「ドラマなんかでさあ、飛行機の中で急病人が出たりして、『お客さまの中にお医者様はいらっしゃいませんか』なんてアナウンスされて、すっと立ち上がるなんてのあるじゃない。あーゆーの、カッコいいなあって思ってさあ…。」

もしこれが、本当にあなたが医師を志したきっかけだとしたら、それを否定してはいけません。なぜって、それが本当の理由なんですから。ただし、カギ括弧の中をそのまま志望理由書に書くことはしないでしょし、面接でもそのまま言うわけにはいきません。これでは落ちます。



実は「**自分の本当の気持ちを、他人に言葉で伝えるのは難しい**」んです。これが今回のテーマの出発点です。

他人に自分の考えや気持ちを伝えるには、言葉で伝える必要があります。でも、私たちは普段、自分の気持ちや考えを、いちいち他人に伝えたりはしません。だから、自分の気持ちを言葉にするという行為に不馴れです。

自分はなぜそれを志すのか？そう問われて初めて、何となく思っていたものを言葉にしなくてはなりません。

でも、**言葉にならない気持ちは、相手にはうまく伝わりません**。残酷な言い方をすると、“**言葉にできなかった気持ち＝相手に伝えられなかった気持ち**”は、**ないのと同じ**なのです。

志望理由書は一人では書けません。どうしても誰かの助けが必要です。なぜ志望理由書は一人では書けないか？

志望理由書は、「あなたの本当の気持ちを、明確な言葉にしたもの」でなければなりません。しかし、繰り返しになりますが、日常生活では自分の本当の気持ちをわざわざ「明確な言葉」にするようなことはしていません。するはずないです。自分の気持ちなんですから、わざわざ言葉になんかしなくたって、自分にはよくわかっています。

しかし、問題は**志望理由書を読むのは他人**だということです。他人はあなたの気持ちはわかりません。他人はあなたの感覚と同じように感じてはくれません。感覚は人それぞれです。

他人に自分の気持ちを伝えるには言葉にするしかありません。それも、誤解されない、明確な言葉に。他人に理解できるような明確な言葉にするには、どうしても**他人の感覚が必要**です。

自分にとっては当たり前のものでも、他人にはよくわかりません。他人とあれこれ話して、分かちあえたり、分かちあえなかったり、イライラしたり、困ったり。そういう過程をへないと、明確な言葉は生まれません。まして、全くの他人たる試験官に、**あなたのホンネがズバツと伝わるような「明確な言葉」は簡単には書けません**。

「言葉にするという」作業にみんなは不馴れです。だから、意識的にやるしかありません。ではどうすれば、何となく、ぼんやりと考えていることを、明確な言葉にできるのか。そのヒントは、「**問いかける**」ことにあります。言い方を変えると「ツッコミ」です。

自分の拙い志望理由を読んでもらって、疑問点をどんどん問いかけてもらうのです。そして、その問いかけに答えるなかで、**あなたのホンネがズバツと伝わるような「明確な言葉」**にしていくのです。

だから、**志望理由書一人では書けない**んです。志望理由書は協力者と一緒に作りなさいということです。当然、協力者というのは学校の先生になりますね。

ただし、この共同作業はかなり手間がかかります。ですから、とにかく、最初原稿を作って、先生に見てもらいましょう。デキソコナイで全然構いません。とにかく、**すぐスタートすること**です。

一度や二度のダメ出しでめげないこと。**みんなの志望理由が本気なら、10回くらい書き直すと、だいぶ使い物になる志望理由書になるはず**です。10回書き直すには、1日1回書き直すとして10日必要です。

さあ、すぐ作成に着手してください。ヘンに尻込みしていると、間に合わなくなります。志望理由書が間に合わないということは、出願できない or 出来損ないの理由書を大学や企業に送るということです。どっちにしても、合格の可能性は低いでしょうね。

＜できれば次回具体的な書き方を…＞

